

第2部 自然の保護と利用

第1章 自然環境の現状と対策

第1節 自然環境の現状

1 植 物

植物は、自然環境に最も支配されやすい生物であり、気候や地形、地質の制約を受けることが多い。

本県の気候は、寒冷・多雨 豪雪を伴う北陸型とは異なり、むしろ年平均気温14℃内外の温暖な地といえるが、地勢から気候区を分ければ、平地部の山陰型気候区と山間高冷地の中国山地型気候区に区分される。したがって、生物も寒暖両系の生物が混交して生息している。

植物の分布を自然植生からみれば、低地には温帯性植物であるツバキ シイ カシ タブノキなどの常緑広葉樹が広がるが、標高が高くなるにつれ、コナラ アベマキ帯、ブナ帯、低木草本帯へと移行する。なかでも、大山の中腹に西日本最大の規模を有するブナの原生林や山頂部のキャブク純林は、本県における代表的な植物の分布域を形成している。また、中山町の海岸には、自生の南限といわれる北方系のハマナスが生育する反面、大山北ろくの海岸部には、南方系のハマヒサカキが生育するなど、寒暖両系の植物が分布している。その他、鳥取砂丘の砂丘植生や浦富海岸のクロ松林は非常に美しい景観を呈している。

一方、平野部の神社の境内や城跡には自然性豊かな森林が残存し、県民に親しまれている。

2 動 物

本県の動物についてみると、鳥類は本邦に生育する野鳥の約半数に当たる200種が生育している。大型動物は少なく、わずかにツキノワグマ、イノシシが知られているにすぎず、他は一ホンザルなどの小型哺乳動物が多い。これら諸動物の生息分布域は、生活環境や食餌の関係などから、自然の生態系がよく保全されている地域に分布し、県東部では八頭郡南域、中部では三徳山、打吹山、西部では大山、蒜山を中心とする地域が主たる生息域といえる。特に、大山には、本邦特産の一属一種の珍獣として知られているヤマネや200種に及ぶ野鳥、並びに1,000種を超す昆虫類などが生息し、西日本における小型動物の楽園となっている。しかし、県下の動物のなかで、学術的に最も貴重なものは、中国山地の溪流地西伯郡東長田地区に生息し、「生きている化石」といわれている有尾両生類「オオサンショウウオ」である。

3 地形、地質

本県の地形、地質は、構成する地質や火山活動などにより、県南域と県北域では著しく相違している。

県南域は、三郡変成岩類や花崗岩類などの古い地層からなるため地形は急しゅんで、そこには侵食により生じた遷急点が随所にみられ、滝や瀬などの自然美豊かな景勝地が形成されている。反面、北域は、比較的新しい地質に属する第三紀層やこれを覆う鮮新世火山岩類が広く分布し、地形は一般になだらかである。さらに、本県には大山をはじめとする新しい火山活動の所産である火山地形が各地域に分布している。なかでも、県東部の扇ノ山、氷ノ山及び県西部の大山火山群などは、秀麗な山容と雄大なスロープとが相なって、優れた火山地形を形成している。

一方、日本海に面する145kmに及ぶ海岸域には、日本海の荒波と河川の流砂により形成された鳥取砂丘、砂州が発達し、後背地の松林と相まって、白砂、青松の美しい砂浜海岸が各所に見受けられる。

また、県東部の岩石海岸には、洞門、洞窟、波食棚等のめずらしい海岸地形が分布し、これらは透明な海と緑の山とよく調和し、山陰の松島といわれる良好な自然景観が形成されている。

4 景 観

本県の地形的景観の特色は、中国山地の分水界が北に偏り、更にその北側に大山火山地帯が横たわって日本海に迫っているので、極めて縦深が浅く、山並の重層する山国的な景観を呈する点にある。しかも、山陰の多雨と急傾斜の短流河川により、山地には深い侵食谷が発達し、河川上流には峡谷のほか、滝や溪谷の発達が顕著である。

大山火山帯では、主峰大山のトロイテ式複式火山のほかに、鷲峰山、三徳山、蒜山、氷ノ山など鐘状火山の面影をとどめるもののほか、船上山、鉢伏山、霊石山、扇ノ山など熔岩台地状を呈するものもあり、多様な山地景観を示している。

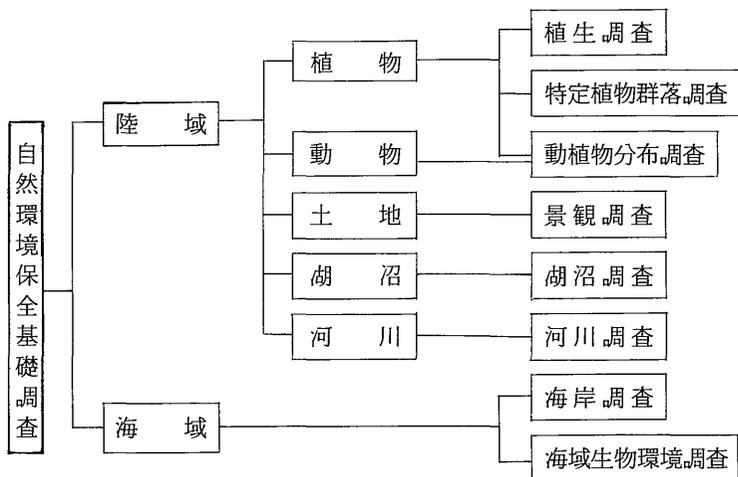
海岸の景観は、肢節密度の高い東部リヤス式岩石海岸や中部岩石海岸、これらにつなぐ鳥取、北条砂丘帯と弓ヶ浜砂嘴など、いわゆる日本海岸地形に特色がある。

生物的景観についてみると、水平的には沿海部のクロマツ林帯からアカマツ林、シイ、タブなどの常緑広葉樹林帯へ、更に山間奥地のスギ、ヒノキ人工林への移行、垂直的には低位落葉広葉樹林帯からブナ帯を経て、ダイセンキャップホク等を含む低木草木帯への移行など自然性豊かな美しい景観が形成されている。

第2節 第3回自然環境保全基礎調査の概要

自然環境保全基礎調査は、自然環境保全法第5条に基づき、おおむね5年ごとに実施される調査であり、第1回は、昭和48年度に、第2回は、昭和53～54年度に実施された。

また、第3回は、昭和58年度から61年にかけて実施される予定でありこの調査の概要は次のとおりである。



1 植生調査

極相としての植生帯をみると、本県の最高地は1729 mであり、垂直分布的概念から見ると、常緑広葉樹林帯としての照葉樹林帯と落葉広葉樹林帯としてのブナ帯の二つの植生帯が存在することになる。しかし、最高地である大山は山頂効果を受けて、キャップボク、クロソヨゴ、ヤマヤナギなどの自然低木林やヒケノガリヤス、ナンゴククガイソウ、コメハツガザクなどによる自然草原など特殊な植生帯が発達している。また、海岸では砂丘や海食崖の発達が著しく、鳥取県は面積こそ小さいけれども、その植生はきわめて多彩である。以下、照葉樹林帯域とブナ帯域とに分けて本県の植生を概説する。

(1) 照葉樹林帯域

鳥取県では、標高400~500 mあたりまで照葉樹林が見られる。しかし、ほとんどの立地が建造物、農林業地に変換され、自然植生は社叢や城跡、利用困難な土壌の浅い急傾斜地等特殊な立地にかぎって残存しているにすぎない。この林帯域の極相林としての照葉樹林は、日本海気候を反映して常緑高木の構成樹種は単純化し、スダジイ、タブノキ、クロキ、モチノキ、ウヅジロガシ、シツカシ、サカキ、タフヨウ、アカガシ、カゴノキなどと少ない。一方、ブナ帯域に分布の中心をもつとみなされる落葉広葉樹の混生がしばしば見うけられ、垂直分布の乱れが観察される。群集単位で見ると、平野部ではスダジイやタブノキの優占するスダジイ-ヤブコウジ群集、山間部ではウヅジロガシ-ヒメアオキ群集、シツカシ群集、ケヤキ-チャボガヤ群集などが一般的である。

山陽側では土地的極相として低山域の尾根部にアカマツ自然林が多産するが、本県ではむしろ稀で、八頭郡用瀬町付近や日野郡日野町黒坂から日南町生山付近あるいは東伯郡赤碓町の船上山などと数少なく、多くは断片的にすぎない。これらの林分は希少価値と同時にヒメコマツを含んでいたり、山陰地方では稀産種であるゲンカイツツジを有する林分があったりで貴重な群落が多い。

その他、モミ群落、イヌブナ群落、アッカシ群落も少数ながら存在する。

鳥取県の沿岸には三大河川の千代川、天神川、日野川の河口を中心にして海岸砂丘が広く発達している。

特に鳥取砂丘は12kmに及ぶ奥行を持つ砂丘が保全されているため、砂丘列をはさんで海岸砂丘と内陸型砂丘が存在し、多様な砂丘植生が見られる。一方、砂丘と交互して見られる海食崖など岩石海岸にはクロマツ自然林が普通に見られるが、大山北麓東伯郡中山町御崎の海食崖上のハマヒサカキ群落は北限の群落として貴重である。また、南限群落としてのハマナス群落が断片的ではあるが白兔海岸および中山町の海岸に見られる。

湿原は、山地がちの地形を反映して鳥取県の場合全般的に少ないが、特に山地の湿原は希少である。いずれも天然記念物に指定されている岩美郡の扇ノ山山麓、標高約400mに位置する、唐川湿原と菅野湿原が特記される。唐川湿原はカキツバタやトキソウ、菅野湿原はオオスゴケやヨシなどによって特徴づけられる中間湿原である。特に後者は花粉分析によって3年以上の歴史を有することが知られている。

代償植生を見ると、言うまでもなく多くは田畑やアカマツ、スギ、ヒノキなどの植林あるいはコナツなどの二次林であるが、傾斜の緩やかな山脚部には本県全域にわたって二十世紀ナシを中心とするナシ園が作られている。また、県の東部地域を中心にしてカキやクリの栽培も盛んである。一方、クロマツの砂防林によって安定化された砂丘地ではブドウ、スイカ、ナガイモ、フッキウ、タバコなど多彩な砂地農業が営まれている。大山山麓のブナ帯域と接する地域では採草地や放牧地が多い。

(2) ブナ帯域

照葉樹林帯域からブナ帯域（いわゆる中間温帯の落葉広葉樹林を含む）への移行は所によってかなり相違し、標高300～600mの範囲で起る。山地の多い本県の場合、相当面積がこの林帯域に包含されることになるが、大山山域および東部山域を除くと、大半がスギやヒノキの植林あるいは二次林化され自然林の残存率はきわめて小さい。

ブナ帯域の主体となる自然林はブナ林であるが、本県のブナ林は日本海型ブナ林（ブナーチシマザサ群団）に包括されるブナークロモジ群集にまとめられる。この群集はクロモジ、チマキザサ、コハノフユイチゴなどによって識別されるほかエゾユズリ、ハイイヌガヤ、ヒメモチ、ツルシキ、ムフサキマユミ、ヤマソテツ、シノフカグマなど常緑の低木や草本によって特徴づけられる。

表日本型ブナ林（フナースタケ群団）の要素と見なされるナツツバキ、イヌシテ、クマシテ、アオハダ、タンナサワフタギなどが混生するのも本県のブナ林の特徴であり、照葉樹林の種類構成が単純化するのに反して、ブナ林は複雑化する傾向が見られる。その他、東部のブナ林にはスギの混生が著しくスギ垂群集に同定される。特に、氷ノ山や智頭町の鳴滝山（1287.3m）に顕著であり、ブナ林の上にスギの突出する景観は特異である。

ブナ帯域の特異な群落として、東大山域の勝田ヶ山（1149.1m）の支尾根の甲川に面する急斜面

の800 m内外の標高地で1 km余りの幅をもって断続する細長い露岩地に、それぞれはやや断片的ではあるがヒメコマツ群落が発達している。一方、溪谷の河床沿いにはサワグルミやトチノキの優占するサワグルミ—ジュウモンシダ群落が発達している。この群落の重要な構成種であるトチノキは本県の東部山地に多いが、西部山地には少なく偏在傾向が見られる。

本県の最標高地は1729 mでブナ帯域に包含され、亜高山針葉樹林は存在しない。大半の山地では山頂までブナやミズナフが優占する森林に覆われるが、大山をはじめ幾つかの山岳では山頂効果の影響により山頂付近に特異な低木林や草原が発達している。特に大山では、土地的条件が加わってその状態が顕著に現われ、1100—1200 mから上部に明白な自然植生としての低木林と草原が広く分布している。低木林では日本最大の規模で天然記念物に指定されているキャップボク林、ヤマヤナギ林、ヒメヤシバシ林、オオイタヤメイゲツ林、ミズナフ、ナナカマド、ヤマヤナギ、ツノハシバミなどが混生する低木林がいわゆる大山本体に見られ、クロソヨゴ林が三鈷峰以東のいわゆる東大山に、北方遺存群落であるミヤマハンノキ林が烏ヶ山に分布する。キャップボク低木林は、あるいは亜高山針葉樹林の代償的な林分と考えることが出来るかもしれない。

草原では乾生型のヒゲノガリヤス—カリヤスモドキ群落、好雪湿生型のナンゴククガイソウ—ヒトツバヨモギ群落、オオバギボウシ群落、高山性遺存群落としてのコメバツガサクラ—ツガサクラ群落などがある。その他、氷ノ山山頂一帯に発達するチシマザサ群落、那岐山(1240 m)のサツサドウダン—シキウツギ低木林も特記される。

代償植生は大半がスギやヒノキの植林であるが、部分的にカマツも試験的に植林されている。

2 特定植物群落調査

第2回調査(54年度60地点)以降で新たに調査する必要を生じた群落の調査と既調査群落に対して、群落の消滅、変化、保護対策の現状、変化状況等を把握する追跡調査を59～61年度にかけて実施する。

59年度は、新規に岩美町地内坂の上神社そう他の7地点を追加調査し、60年度以降に全群落の変化状況を調査することとしている。

3 海域生物環境調査

第2回調査(54年度5箇所)した地域を対象に、生物の生息状況及び生息環境の現況についての時系列的変化を59年度から61年度にかけて調査する。

調査地は小鴨磯(岩美町)、御崎(中山町)他の5か所の海岸である。

4 動植物分布調査

59年度に、環境庁が一般の自然愛好家に参加を求めて「環境指標種調査」(身近かな生きもの調査)として、最適な生息、生育環境の幅が狭く、環境の変化の影響を受けやすい生物でありかつ、識別が容易な動物40種、植物30種を選定し通称「緑の国勢調査」として実施された。

環境庁の発表によると、この調査に協力したボランティアの総数は、個人、団体を合せて、全国各

県から約10万人あり、27万枚の調査票に動物、115万件、植物74万件、計189万件の分布に対する情報がよせられている。

この調査の結果は、今後、専門家の協力を求め、資料の検討、解析等が行なわれることとなっている。

分布確認情報の多かったもの

動物	スズメ、ツバメ、ミンミンゼミ、キジバト、ヒグラシ
植物	セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、セイトカアワダチソウ、在来タンポポ、ヒルガオ

分布報告の特徴

サワガール	全国の分布図が作られたのは初めてである。従来は、分布域が狭いと考えられていたが 北海道からも報告され事実とすれば新しい発見である。
ゲンジボタル	広範囲に分布がみられ各地で保護増殖対策が行なわれているのをうかがわせている。
カワセミ	分布域が後退したといわれる1970年ごろに比べ、各地から予想以上に発見され、水質浄化、農薬規制の効果等があがったと見られる。
セイトカアワダチソウ	全国的に分布図が作られたのは初めてと思われるが、都市を中心に河原、造成地等に広く侵入している様子が確認された。
セイヨウタンポポ	外来種が確認されて以来、約100年であるが、この間に日本地図が描けるほどの分布になった事は、おどろきである。

第3節 保全すべき地域

県内における自然環境を保全すべき地域は次の表のとおりである。

なお、評価については、部門ごとに特殊性があり一律に規定することはできないが、学術的な観点から全国レベルのもの－A級、中国地方レベルのもの－B級、県レベルのもの－C級として表示した。

表1 自然環境を保全すべき地域(1)

評価部分	植物部門	動物部門	地形部門	地質部門	計
A 級	10 箇所	7 箇所	2 箇所	3 箇所	22 箇所
B 級	10	8	21	19	58
C 級	17	7	40	—	64
合計	37	22	63	22	(128) 144

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表2 自然環境を保全すべき地域(2)

部門	東部地区	中部地区	西部地区	計
植物	27 箇所	5 箇所	5 箇所	37 箇所
動物	9	5	8	22
地形	33	15	15	63
地質	11	4	7	22
合計	(71) 80	(23) 29	(34) 35	(128) 144
景観				13

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表3 保全すべき植物

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評 価	備 考
覚 寺 神 社	鳥取市	シイ林	C級	
伏 野 神 社	〃	〃	〃	
御熊神社とその 周辺	〃	〃	B級	
細 見 神 社	〃	〃	C級	
香 取	〃	シイーカシ林	A級	指定済
松 上	〃	シイ、サカキ林	〃	〃
管 野	国府町	オオミズゴケなどの湿原植物	〃	〃
甘 露 神 社	岩美町	シイ林	C級	
太 田 神 社	〃	〃	〃	
院内部落周辺	〃	常緑広葉樹林	〃	
唐 川	〃	カキツバタなどの湿原植物	A級	指定済
坂 谷 神 社	福部村	常緑広葉樹林	C級	
南 田 神 社	〃	シイーカシ林	B級	
鹿 野 城 跡	鹿野町	タブーシイ林	C級	
赤 蔵 神 社	船岡町	シイ、カシ、サカキ林	B級	
三 谷 神 社	河原町	サカキ林	C級	
北村権限の森	〃	ツバキ、タブ林	〃	
陣 鉢 山	若桜町	ブナ林	B級	
糸 白 見	〃	ヒメコマツ・シャクナゲの自生地	C級	
弁 天 谷	〃	〃	〃	
頭 巾 山	用瀬町	針・広葉樹混交林	〃	
洗 足 山	〃	ヒノキ・ヒメコマツ林	A級	
犬 山 神 社	〃	カシ、シイ林	B級	
三 原 高 原	佐治村	ススキ・アカモノを中心とした風衝草原	〃	国定公園に 指定済
三国山・高鉢山 ・高山	佐治村 河原町	ブナーミズナフ林	A級	一部国定公園 に指定済

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
鳴 庵 山	智頭町	ブナ林	A級	
虫 井 神 社	〃	カシ、サカキ、ブナ林	B級	
笏 賀		ヒノキーツクシシヤクナゲ林	A級	指定済
田 代 部 落	〃	ヒゲノガリヤス・アカモノが密生する風衝草原	B級	
若杉山・埴黒山	〃	アカモノを混える風衝草原	C級	
曾 谷	関金町	オオミズゴケの自生する湿原	B級	
笹津・御崎海岸	赤碕町 中山町	ハマヒサカキ群落	A級	
馬 場	西伯町	シイ林	〃	指定済
本宮部落周辺	淀江町	ツバキーモチノキ林	C級	
別 所	日野町	コナツ林	〃	
三 栄	日南町	ケヤキ林	〃	
日 谷 神 社		コナフ アカマツ林	B級	

表4 保全すべき動物

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
千代川河口	鳥取市	水鳥（ハクチョウ、カモ類）の渡来、生息地	C級	銃猟禁止区域
河内～安蔵	〃	カジカの生息地	〃	
院 内	岩美町	モリアオガエルの生息地	〃	
酒 津	気高町	ウミネコの渡来地	B級	県立公園指定済
殿 ～ 矢原	鹿野町	カワシンジュガイの生息地	〃	
鷺 峰 山	〃	鳥類、蝶類（ギフチョウ）の生息地	〃	鳥獣保護区
大 江 ノ 奥	船岡町	イノシシ、クマタカの生息地	C級	
三原高原	佐治村	鳥類、蝶類（ウスイロヒョウモンモドキ）の生息地	B級	国立公園に指定済
三国山・高鉢山・高山	佐治村 河原町	鳥類（クマタカ）、蝶類（ミトノシジミ類）の生息地	A級	一部国定公園に指定済
天神川河口	北条町 羽合町	水鳥（ガン、カモ、シギ、チドリ）の渡来、生息地	B級	銃猟禁止区域
加谷～木地山	三朝町	カジカの生息地	C級	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
福 山	三朝町	オオサンショウウオの生息地	A級	
三軒谷・大谷	〃	魚類(イワナ、ヤマメ)、鳥類(ヤマセミ)の生息地	C級	
今 西	関金町	オオサンショウウオの生息地	A級	
日野川河口	米子市	水鳥(シギ、チトリ、カイツブ)の生息地	C級	銃猟禁止区域
彦 名	〃	コハクチョウを主とする水鳥の渡来、生息地	A級	鳥獣保護区
印 賀	日南町	ブッポウソウの生息地	〃	
板井原川~ 真住川	日野町	アマゴの生息地	B級	
上 菅	〃	オオサンショウウオの生息地	A級	
毛 無 山	江府町	キツキ類の生息地	B級	
谷 山 川	溝口町	オオサンショウウオの生息地	A級	
二 部	〃	カミキリムシ、ハナムグリ類の生息地	B級	

表5 保全すべき地形 地質

〔地 形〕

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
児 落 の 滝	鳥取市	若返りの谷、学術参考地	C級	
雁 金 山	〃	花崗岩の孤立丘	〃	
ス ク モ 山	〃	スリパチ型の小孤立丘	〃	
矢 山	〃	孤立山地地形	〃	
長 柄 峡 谷	〃	河川争奪によってできた深い侵食谷	〃	
摩 尼 山	鳥取市 福部村	花崗岩質岩石の孤立山地地形	〃	
毛 無 山	鳥取市 鹿野町	安山岩のトーム状地形	〃	
大 石 峡 谷	国府町	上流型の峡谷地形	〃	
今 木 山	〃	沖積平野における残丘	〃	
菅 野	〃	湿原を有する礫岩台地地形	A級	指定済
金 峰 山	岩美町	第三紀層の孤立山地地形	C級	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
立 岩 山	岩美町	急傾斜を有する孤立峰	B級	
酒 ノ 津	気高町	垂直な崖・幅広い海食台・離れ岩などが発達する岩石海岸	〃	県立公園指定済
鷲 峰 山	鹿野町	開析の進んだ火山地形	〃	
長 尾 鼻	青谷町	安山岩溶岩の断崖地形	〃	県立公園指定済
姫 路 峡 谷	郡家町	上流型の峡谷地形	〃	
猫 山	〃	急傾斜面を有する孤立丘	C級	
霊 石 山	河原町 郡家町	山頂に平坦面を有する火山地形	B級	
遠 見 山	八東町 若桜町	古生層の壮年山地地形	C級	
諸 鹿 峡 谷	若桜町	安山岩溶岩の急崖地形	B級	
城 山	〃	古生層の孤立丘地形	C級	
落 折 高 原	〃	氷ノ山溶岩による溶岩台地	〃	
落 折 峡 谷	〃	急壁と峡谷地形	〃	
吉 川 峡 谷	〃	〃	〃	
頭 巾 山	用瀬町	急峻な地形を示す壮年山地地形	B級	
屋 住	〃	花崗岩に刻まれた峡谷地形	C級	
千 代 川 中 流	用瀬町 智頭町	壮大な谷壁と穿入蛇行を示す峡谷地形	B級	
籠 山	〃	古生層の壮年山地地形	C級	
津 無 高 原	佐治村	山麓階的な侵食平坦面地形	B級	
険 所 峠 面	〃	中国準平源の遺物	C級	
佐 治	〃	穿入蛇行地形	B級	指定済
穂 見 山	智頭町	古生層からなる壮年山地地形	C級	
新 見 川	〃	壮年期の峡谷地形	〃	
岩 倉 峡 谷	倉吉市	柱状節理にそって滝が形成された峡谷地形	〃	
高 城 山	〃	大山の裾野面中にそびえる花崗岩の壮年山地	B級	
小 浜	泊 村	懸谷と海岸段丘地形	C級	
泊		安山岩溶岩に形成された海食崖、波食棚	B級	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
笏 賀 峡 谷	三朝町	小崖錐を刻む溪流河川のV字谷地形	C級	
太 郎 田 峡 谷	〃	深いV字谷と穿入蛇行地形	B級	
鉛 山 峡 谷	〃	やや浅いV字谷地形	C級	
曹 原 寺 峡 谷	〃	上流型V字谷地形	〃	
加 谷 ～ 木 地 山	〃	〃	〃	
高 清 水 高 原	〃	隆起準平原遺物の可能性をもつ地形	A級	
福 山	〃	前輪廻の谷と峡谷地形	B級	
田 代 ・ 下 畑	〃	花崗岩の峡谷地形	〃	
若 杉 山	〃	準平原	C級	
北 条 砂 丘	北条町 大栄町	浜提列の発達した砂丘	B級	
籠 津 ・ 御 崎 海 岸	赤碓町 中山町	海食によって形成された急崖地形と漂礫浜	〃	
粟 島	米子市	弓ヶ浜砂州に突出する玄武岩の孤立丘	C級	
弓 ヶ 浜	米子市 境港市	日野川によって形成された長大な砂州	B級	
法 勝 寺 川	西伯町	上流型溪谷地形	C級	
金 華 山	〃	絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立丘	B級	指定済
越 敷 野	会見町	溶岩台地	C級	
要 害 山	会見町 西伯町	壮年山地地形	〃	
壺 瓶 山	淀江町	山頂部に平坦面をもつ玄武岩質の山地	〃	
赤 松 原	大山町	開析の進んでいない火砕流面	〃	
孝 霊 山	大山町 淀江町	大山の寄生火山の中で最大のトロイメ状の火山地形	B級	
大 雀	名和町	漂礫浜	C級	
大 倉 山	日南町	凹形斜面をもつ孤立山地	〃	
鬼 林 山	〃	北斜面に広大な緩斜面を有する壮年山地	〃	
猿 飛 峡 谷	江府町	峡谷地形	〃	
宝 仏 山	江府町 日野町	壮年山地の地形からなる孤立峰	〃	
鬼 住 山	溝口町	花崗岩からなる壮年山地		

〔地 質〕

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評 価	備 考
円 護 寺	鳥取市	安山岩の柱状節理の発達地、学術参考地	B級	
円 通 寺	〃	円通寺礫岩の好露頭地	〃	
白 兔	〃	白兔礫岩層の模式地、学術参考地	〃	
普 含 寺	国府町	中新世の標準化石産地及び学術上の模式地	〃	
拾 石	〃	安山岩の柱状節理の発達地	〃	
岡 益	〃	植物化石の産地	〃	
宮ノ下・奥谷	〃	海産魚類化石の産地	A級	
菅 野	〃	湿原地中に形成された泥炭層	〃	指定済
亀 尻 高 原	青谷町	亀尻玄武岩の模式地	B級	
富 枝	八東町	安山岩の柱状節理の発達地	〃	
佐 治	佐治村	緑色千枚岩を原岩とした佐治石の分布地	〃	指定済
高 城 山	倉吉市	大山山麓の基盤岩露出地	〃	
高 清 水 高 原	三朝町	ウワン鉱床の標式地及び植物化石の産地	A級	
上 大 立	〃	古期大山火山碎屑岩の模式地	B級	
北 条 砂 丘	北条町 大栄町	砂丘成因にかかる鍵層の分布地、学術参考地	〃	
高 姫	会見町	中位段丘を構成する礫層の模式地	〃	
一 ノ 谷	大山町	溝口凝灰岩の模式地	〃	
名 和 ・ 御 来 屋	名和町	御来屋礫層の模式地	〃	
名 和	〃	火山碎屑流（名和泥流）の分布地	〃	
多 里	日南町	多里層の模式地、荷重痕の露出地及び化石の産地	〃	
多 里	〃	粘板岩を原岩とする松皮石の産地	〃	
宝 仏 山	江府町 日野町	角礫岩層の好露出地		

表6 保全すべき景観

〔海岸地域〕

地区名	概要	備考
山陰海岸国立公園 周辺地区	<p>金峰山及び蒲生峠付近の展望 岩井温泉西南丘陵、御湯神社、恩志付近、兵主神社、立岩山、二上城跡一帯の広葉樹林。 摩尼山頂上部の植相。</p>	
賀露～橋津海岸地区	<p>賀露、湖山、大寺屋、白兔、末恒のクロマツ林。 9号線南側斜面のタブ、シイ林。 魚見台、長尾鼻、石脇東部岬の展望。 湖山池の小島與群、石釜。 矢山、吉岡、国立療養所、箕上山、三谷、布勢、天神山城跡、山王権現社周辺等の林、馬ノ山、大平山、御冠山、鉢伏山の展望。 羽衣石城跡の広葉樹林。 白兔伝承地、酒津、夏泊、泊等の漁村。 吉岡、浜村、東郷、浅津の各温泉。 馬ノ山古墳群、倭文神社の人文景観。</p>	
北条砂丘地区	<p>松上、東園、西園などの集落南縁のタブ、エノキ、ヤナギなどの対南風防風林。 北尾古代住居跡、島遺跡及び由良砲台跡の人文景観。</p>	
大山北麓海岸地区 (由良～淀江)	<p>中山町海岸のハマナスやアジサイの群落、沿道のクロマツ林。 中山町松河原及び壺瓶山北麓の常緑広葉樹林。 名和氏史跡、赤碕漁港、八橋城跡、赤碕畜産試験場と東伯町一帯の高麗シバの集団栽培景観。</p>	
弓ヶ浜海岸地区	<p>外浜堤帯に孤を描くクロマツ防風林帯。 内浜砂丘帯の古いクロマツ林列、集落列沿いのクロマツ屋敷林列、粟島神社の常緑広葉樹林。</p>	

〔主要市街地周辺〕

地区名	概要	備考
鳥取	<p>久松山の山容、植相。</p> <p>摩尼山塊、稲葉山山塊（池田家墓地、宇部神社、美敷水源地を含む）</p> <p>霊石山塊、大路山、面影山、今木山及び千代川西岸平野中の孤立丘群。</p> <p>庁、国分寺、法華寺などの集落景観と屋敷林。</p>	
倉吉	<p>打吹山、巖城や打吹山南麓の八幡神社の広葉樹林。</p> <p>国庁裏神社社叢。</p> <p>伯耆国分寺跡－四天王寺－不入岡の展望。</p> <p>天神川と三徳川との合流点付近、及び大宮神社等の社叢。</p>	
米子	<p>城山の地形、植生。</p> <p>市街地内の社寺林、兼久土手の桜並木、王子製紙社宅周辺のポプラ並木、皆生温泉地内外のクロマツ林。</p> <p>福成一天万－安曇周辺の丘陵又は孤立丘群に生育する広葉樹林</p>	

〔主要河川流域〕

地区名	概要	備考
智頭川流域	<p>(国英～社)</p> <p>釜ノ口サクツ並木、樹園地、犬山神社社叢。</p> <p>高福攻撃面、鷹狩攻撃面、河床露岩地（用瀬） 頭巾山露岩峰、洗足山露岩峰、篠ヶ片穿入蛇行地形。</p> <p>樹形城跡、景石城跡、用瀬宿場町町並。</p> <p>(智頭～芦津)</p> <p>スギーヒノキの美林。</p> <p>三郡変成岩露岩の河合床。</p> <p>置千木止り屋根型集落、高段定置稲架、智頭町の養鯉と旧</p>	

地区名	概要	備考
智頭川流域	<p>宿場町及び旧木地師集落。</p> <p>(佐治)</p> <p>山王滝トチの巨木群落。</p> <p>青黒色佐治石河床、猿渡溪谷、尾際ダム。</p> <p>因州和紙の産地、津野並びに津無の高位集落と高原面上からの景観。</p> <p>(曳田川)</p> <p>曳田川上流の三滝溪。</p> <p>(安蔵川)</p> <p>下流の花崗岩地域。</p>	
八東川 袋川流域	<p>(丹比～若桜)</p> <p>丹比攻撃面、玄武岩柱状節理露頭、千石岩、戸倉峠付近の溪谷と急崖。</p> <p>鬼ヶ城跡と樹叢、若桜宿場町の景観、重要文化財建築岩屋堂、高段定置稲架、隠遁集落（落折等）。</p> <p>(扇ノ山、氷ノ山西麓)</p> <p>姫路溪谷、妻鹿野溪谷、茗荷谷ダム、春米溪流。</p> <p>石屋根の集落、隠遁集落、旧木地師集落。</p>	
勝部川流域	<p>八葉寺の植相、河谷の斜面。</p> <p>マス養殖、因州和紙の産地。</p>	
竹田川流域	<p>三朝温泉から坂本－三徳山－俵原－鹿野道沿道の溪谷美と史跡名勝地、三徳山。</p> <p>飯盛山の自然植相、俵原牧場、隠遁集落俵原。</p> <p>中津ダム、名勝小鹿溪、東西小鹿段丘集落。</p> <p>鉛山－小河内、田内－大谷付近の溪谷。</p>	
日野川流域	<p>鏡ヶ成－下蚊屋溪谷と猿渡溪谷、坂井原溪谷。</p> <p>根雨から生山地区の河床景観、石霞溪の岩石美、溪谷地形。</p> <p>城跡、根雨－生山の宿場町、箱棟屋根景観。</p> <p>坂井原付近、印賀川、湯川、小原川、大木屋の各溪谷。</p>	

第4節 保全対策

1 県自然環境保全地域の指定

県内における自然環境を保全すべき地域のうち、優れた自然の風景地については、自然公園として指定がされているが、①高山植物、優れた天然林等の区域、②特異な地形、地質を有している区域、③動植物を含む自然環境が優れた状態を維持している海岸、湖沼、湿原、河川等については鳥取県自然環境保全条例により、順次、県自然環境保全地域の指定を行うこととしている。

現在、指定されている県自然環境保全地域は、次の表のとおりである。

表7 県自然環境保全地域

番号	地域名	所在地	面積の内訳 (ha)			指 定 理 由	指定年月日
			普通 地区	特別 地区	計		
1	菅野	国府町	200	1850	2050	ミズゴケ等の湿原植物、溶岩台地水河期の花粉等を有する泥炭層	昭和 52. 4. 8
2	香取	鳥取市	400	390	790	シノキ林を主としたヤブツバキクラス域の常緑広葉樹林	52. 4. 8
3	松上	〃	—	520	520	シノキ林を主としたヤブツバキクラス域の常緑広葉樹林	52. 4. 8
4	笏賀	三朝町	—	320	320	シノキ、ウツジロガシ等の常緑広葉樹林とヒノキ、ツクシシヤクナゲ群落	52. 7. 29
5	馬場	西伯町	—	370	370	シノキ林を主としたヤブツバキクラス域の常緑広葉樹林	52. 7. 29
6	唐川	岩美町	—	1980	1980	カキツバタ等の湿原植物、ハッチョウトンボ溶炭台地、花粉植物化石を有する泥炭層	53. 5. 12
7	金華山	西伯町	—	610	610	絶壁や洞窟、寄岩を有する凝灰角礫岩の孤立状の山体	55. 12. 23
8	佐治	佐治村	2400	1880	4280	穿入蛇行地形、V字形峡谷 緑色千板岩を原石とする佐治石分布	59. 9. 25
合計	(8地域)		3000	7920	10920		

2 自然保護思想の普及

(1) 自然科学館と自然解説

優れた自然を保護することは私達国民の課題であるが、そのためには法律により規制をかけるだけでなく、自然の利用者ひとりひとりが自然に学び、自然の大切さを理解することが必要である。そのため県では、西伯郡大山町大山に県立大山自然科学館を、岩美郡岩美町牧谷に県立山陰海岸自然科学館を建設し自然保護思想の啓もうを図っている。

また、これら県立自然科学館を基地として、5月から11月の期間内に自然解説を実施し、展示物の解説のほか、「大山」並びに「山陰海岸」の地形 地質、植物、動物及び人文歴史(大山のみ)等について現地解説を行い 自然に関する知識の普及と自然保護思想の高揚を図っている。

表8 昭和59年度自然解説実施状況

実施時期	大山自然解説		山陰海岸自然解説	
	実施日数	参加人数	実施日数	参加人数
春季(5~6月)	8日	73人	日	人
夏季(7~8月)	35	2,140	9	178
秋季(9~11月)	11	207		
計	54	2,420	9	178

(2) 青少年自然保護研修(自然を守る少年教室)

本県の優れた自然を守り、後世に伝えていくためには、次代を担う青少年たちに、自然保護の重要性を正しく理解させることが大切である。

このため、将来各層のリーダーとしての活躍が期待される中学生を対象に、下記のとおり自然保護研修を実施した。

この事業は、昭和56年度から実施しており自然の中での活動等をとおして、充実した研修を行うことができた。

(研修概要)

日 程 昭和59年8月8日~8月10日

場 所 県立船上山少年自然の家

参加者 中学2年生43名、引率教諭13名

参加校 鳥取北中学校、岩美中学校、福部中学校、若桜中学校、鹿野中学校、智頭中学校、中山中学校、赤碕中学校、東山中学校、大山中学校、溝口中学校

以上11校

講 師 加 納 一 成 (箕蚊屋中学校教諭)
川 上 明 敏 (南部中学校教諭)
橋 谷 聡 (米子北高等学校教諭)
藤 本 泰 三 ()
山 名 巖 (県教育研修センター課長)
清水谷 登 (大山保勝会)
藤 野 一 成 (大山隠岐国立公園管理事務所長)

研 修 内 容 自然観察 (罫返しのか、船上山登山スケッチ)
星天観測 (スライドによる講義、観測実習)
グループ討議 (グループ毎に自主討議)
講 義 (国立公園と自然保護)

第 5 節 温泉の現状

本県における温泉は、13温泉地、278源泉(利用源泉208、未利用源泉70)から平均温度56.3度の温泉水を毎分14,463.7リットルくみ上げ、主として観光、保養温泉として利用され、昭和57年における利用人口は454万人に達している。

昭和59年3月現在の各都道府県別温泉利用状況(環境庁自然保護局発表)によれば、本県の温泉源総数、ゆう出量はいずれも全国レベルの中位以下に位しているが、温泉42度以上の源泉占有率は74.5パーセントを示し、全国最高位の大分県の91.1パーセントには及ばないまでも、全国平均の57.4パーセントを大きく上回る高率を占めている。このことは、本県の温泉は、主として高温温泉を対象とした適正な利用が行われていることがうかがえる。

温泉の利用人口は、最近横ばい状態ながら、長期的にみると漸増の傾向をたどり、国民の保養、休養の場として、あるいは医療施設の一つとし、今後ますます利用されてゆくことが予想される。

これに対処するため従来、資源の枯渇、衰退現象等を防止するため、それぞれの地域に適合した掘削等の規制を行う一方、源泉の集中管理の導入を指導してきたところである。

更に今後は、資源の衰退防止と、既存温泉地の適正な利用指針の基礎資料とするため、県下の主要温泉地について、地球物理調査、地下地質構造調査等一連の科学調査を年次計画で実施することとし、既に昭和52年度～54年度に皆生温泉、昭和55年度～56年度に三朝温泉、昭和56年度～58年度に東郷・羽合両温泉の調査を終了しており、昭和58年度から3か年計画で浜村温泉について調査を実施している。

表9 温泉地別温泉利用状況

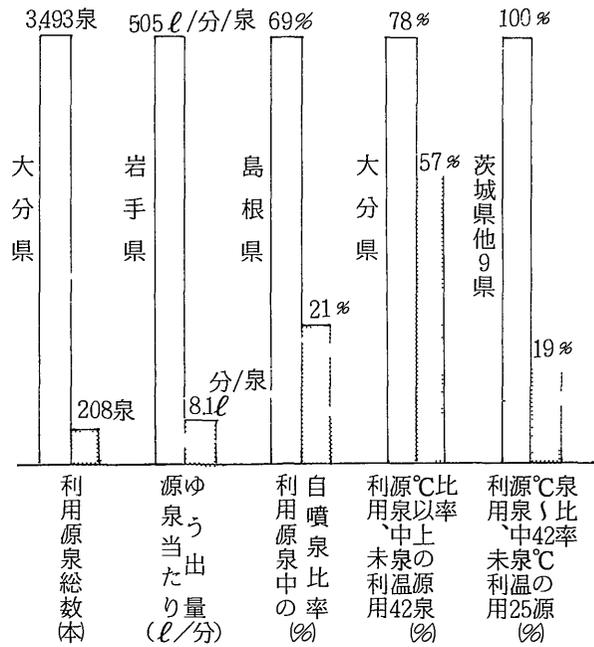
昭和60年3月現在

温泉地名	源泉数 (A+B)	利用源泉地 (A)		未利用 源泉数 (B)	温 度 別 利 用 源 泉 数			平均 温度 ℃	ゆ っ 出 量 合 計 ℓ/分	主たる泉質
		自噴	動力		25℃ 未満	25℃以上 42℃未満	42℃ 以上			
※岩井温泉	6	-	4	2	-	1	3	46.4	1,116.6	カルシウム・ナ トリウム-硫酸 塩泉
鳥取温泉	28	-	16	12	-	1	15	47.7	818.8	ナトリウム-塩 化硫酸塩泉
※吉岡温泉	5	-	4	1	-	1	3	47.0	1,157.6	単純温泉
浜村温泉	25	-	22	3	-	6	16	50.0	1,188.5	ナトリウム・カ ルシウム-塩化 物泉
※鹿野温泉	8	-	7	1	-	-	7	62.2	831.6	単純温泉
羽合温泉	9	-	6	3	-	-	6	54.3	1,790.0	ナトリウム・カ ルシウム-塩化 物・硫酸温泉
東郷温泉	49	-	34	15	-	9	25	62.5	1,633.4	〃
三朝温泉	94	41	42	11	-	22	61	49.9	2,368.4	単純放射能泉
※関金温泉	22	2	13	7	-	7	8	47.2	315.8	単純温泉
皆生温泉	21	-	13	8	-	1	12	61.7	3,831.8	ナトリウム・カ ルシウム-塩化 物泉
そ の 他	11	1	3	7	1	3	-	28.1	485.2	
計	278	44	164	70	1	51	156	54.0	15,537.7	

(注) (1) 平均温度は、温泉地の全ゆう出熱量を、全ゆう出量で割ったものである。

(2) 温泉地名欄 ※印は国民保養温泉地指定温泉地を示す。

表 10 本県の温泉の全国対比



凡 例

□ 能力別最高位県

□ 鳥取県能力別比率

参考資料

各都道府県別温泉利用状況
 (環境庁自然保護局昭和58
 年度)

第 2 章 自 然 公 園

第 1 節 自然公園の保護

1 自然公園の概況

自然公園は、優れた自然の風景地を保護するとともに、その適正な利用により我々の保健休養及び教化に資することを目的として設けられたものであるが、近年、経済社会の進展に伴い日常生活圏に良好な自然が少なくなったこともあって、都市生活等における精神的緊張の解放を図るための場として、あるいは、野外レクリエーションの場としてその利用の欲求が高まってきている。

これらの欲求にこたえ、利用者が自然公園本来の目的に沿って快適な利用が図れるよう、各種施設の整備を進めている。

一方、優れた自然は、後世の人間にとっても貴重な資産であるので、その自然環境を保全するため、規制の強化及び管理体制の充実に努めている。

県下の自然公園の指定状況及び各公園の概況は、次のとおりである。

表 1 1 鳥取県の自然公園

区分	公園名	指 定 年月日	全面積	県内面積	特別保 護地区	特 別 地 域				普通 地域	関係市町村
						1 種	2 種	3 種	特 別 地域 <small>計</small>		
国 立	大山隠岐 国立公園	昭和 11 2 1 38. 4 10 拡大	ha 31 927	ha 13 531	ha 1 139	ha 3, 540	ha 2, 544	ha 2 677	ha 8, 761	ha 3631	大山、溝口、江 府、岸本、関金 東伯、赤碓、名 和、中山
	山陰海岸 国立公園	38. 715	8 996	1 524	125	—	1, 312	75	1, 387	12	鳥取、福部、岩 美
	小 計		40 923	15, 055	1, 264	3 540	3 856	2 752	10, 148	3643	
国 定	比婆道後 帝 积 国定公園	38. 7. 24	7, 808	1, 437	—	22	834	581	1 437	—	日南
	氷ノ山後山 那 岐 山 国定公園	44. 4 10 58 2. 9 拡大	48, 803	8 579	201	806	1 216	6 356	8 378	—	岩美、国府、八 東、郡家、若桜 智頭、用瀬、佐 治、三朝
	小 計		56, 611	10, 016	201	828	2, 050	6 937	9 815	—	
県 立	奥 日 野 県立公園	39 4 1	4 278	4, 278	特別地域指定なし						日野、日南
	三朝東郷湖 県立公園	29. 4 1 39 6. 1 拡大	15, 367	15, 367	同 上						倉吉、三朝、東 郷、羽合
	西因幡県立 自然公園	59 5. 8	597	597	—	—	32	—	32	565	気高、青谷
	小 計		20, 242	20 242							
計			117, 776	45, 313	1 465	4, 368	5, 938	9 689	19, 995	4, 208	公園面積=県土 面積の 130%

(1) 国立公園

ア 大山隠岐国立公園 (昭和11年2月1日指定
昭和38年4月10日追加指定)

中国山脈の最高峰伯耆大山(1,711メートル)を中心とする山岳地帯に島根県の隠岐島、島根半島的美保ノ関、日御崎、出雲大社の三地点と、大田市に近い火山三瓶山を合わせた海陸に及ぶ変化のある公園である。

大山はトロイテ火山であるが、西方からみると富士型の美しい形なので、伯耆富士と呼ばれている。東側はこれと全く反対で、北壁と呼ばれるアルプス的な岩壁がそそり立っていて、女性的な面と男性的な二つの面を持っている。日本海に近くそびえるので、標高以上に高くみられ、すそ野原野が美しい。山頂からはナイフエッジの縦走路が続きスリルがある。主峰の北には矢筈ヶ山、勝田ヶ山、甲ヶ山の火山群峰が続いている。

火山の中腹はブナの原始林におおわれていて、新緑紅葉がすばらしく、また、海岸部に多くみられるクロマツが、かなり標高の高いブナの成林がみられるような所で成育しているのが珍しい。山頂には高山植物群落があり、キャップボクの群落がみられる。海に近いので島根半島、(中海の展望がすばらしい。

杣水原、豪円山の一带は、関西第一のスキー場でリフトも多く、九州方面からの利用も多い。夏はキャンプが盛んである。大山は修験道の盛んであったところで、大山寺・大神山神社などの社寺に数多くの僧坊が歴史を物語っている。大山鏡ヶ成には国民休暇村(全国最初)があり、大山の南に続く蒜山は上・中・下蒜山の三峰とそれに続く高原地帯とともにレクリエーションの中心となっている。

イ 山陰海岸国立公園(昭和38年7月15日指定)

鳥取県の鳥取砂丘から、京都府の網野町まで延長75キロの日本海海岸の公園である。鳥取砂丘、浦富海岸に続いて、但馬御火ノ浦、香住、玄武洞、城崎温泉、久美浜湾など優れた景勝地が続いている。

この辺の海岸は、地図で見ると平凡のように見えるが、実際には小さいながらも湾入、岬、島々と変化が多く至るところに美しい海岸風景がみられる、地質の公園、岩石美の公園といわれる。地質は、各種の噴出岩、第三紀層、深成岩など複雑で、それが美しい層をなしていたり、節理を示している。その上に地盤の隆起、陥没、断層などによって地形が複雑となっており、更に侵食をうけて断がいととなり、洞門・洞窟・石柱となり、奇勝が作られている。

(2) 国定公園

ア 氷ノ山後山那岐山国定公園 (昭和44年4月10日指定
昭和58年2月9日追加指定)

中国山地の東端、鳥取、兵庫、岡山の3県にまたがる脊梁山地一帯で中国山地第2の高峰氷ノ山(1,510メートル)を主峰とし、後山、那岐など1,000~1,300メートル級の南北に連なる山岳と、音水、芦津などの溪谷、神鍋、鉢伏、黒岩などのスキーや野営に適した高原を含んだ公園

である。

鉢伏山から氷ノ山、後山、大ヶ仙に至る山りょう部は全体に丸味を帯びた準平原状の山容だが山腹は侵食により音水、赤西、芦津などの溪谷美や雨滝、露ガ滝などの特異なばく布群がみられる。

これらの山々の中腹又は山ろくには畑ヶ平、鉢伏、兎和野、黒岩などの高原がある。

公園一帯には、自然林が各所にみられ、ブナはこの公園の主要な山岳の山りょう部や溪谷に発達する植生で、標高700メートル以上で群落をなしている。特に氷ノ山山頂付近は、ブナ、シオジ、スギ、キャップクなどの群落がみられ、古生沼はヤチスゲ、アイバソウなどの湿原植物でおおわれている。三川山、後山はシャクナゲがある。

なお、佐治村、三朝町の中国山地脊梁部に存するブナ、ズナツ樹林地一帯を保護するため、当公園の一部として昭和58年2月9日に拡張指定された。

イ 比婆道後帝釈国定公園（昭和38年7月24日指定）

中国山地のほぼ中央にある比婆、道後、船通の山々と、南にある帝釈峽を含んだ公園である。

標高は約1,200メートルで、山頂部はゆるやかな準平原をなしている。この一帯の森林は砂鉄製錬のために永年にわたって伐採されたので放牧地、草原となっていてところが多く、快い草原風景を呈しており、ツツジの名所もある。船通山のイチイの大木と、比婆山のフナの原始林は貴重な植物景観となっている。

帝釈峽は山岳地帯の南約1.6キロの地点にある石灰岩の溪谷で、付近には石灰岩の作るカルスト地形がよく発達し、ドリーネ（地鉢）、ウバーレ（複合地金帯）、ポリエ（石灰盆地）などが見られる天然橋の雄橋、白雲洞などがある。湖水の沿岸は、森林もよく野生猿がみられる。

(3) 県立公園

ア 三朝東郷湖県立公園（昭和29年4月1日指定 昭和39年6月1日追加指定）

この公園は、三朝町の一部と東郷町の全部、羽合町の大部分、倉吉市の一部を含めた15,367ヘクタールで東伯郡の東端に位置し（因幡伯耆の国境）南は岡山県美作に中国山地をへだてて接し、西は小鴨川に北は日本海にのぞんだ県のやや中央部に位置している。この区域は三朝・東郷・羽合の温泉地があり、景勝地としては、小鹿溪・東郷池・史跡名勝としては三徳山・打吹山等がある。東郷湖畔一帯は、20世紀梨の果樹園となっている。

イ 奥日野県立公園（昭和39年6月1日指定）

この公園は、日野郡日野町、日南町の日野川水系を基幹として日野町の古峠山、塔ノ峰、鶴ノ池、黒坂滝山、日野川溪流、日南町の石霞溪、菅沢ダム、花見山などを含む4,278ヘクタールの景勝地である。

ウ 西因幡県立自然公園（昭和59年5月8日指定）

この公園は、気高郡気高町と青谷町地内の水尻海岸から長尾鼻を経て長和瀬まで約1.6kmにわ

たる男性的な岩石海岸、女性的な砂浜海岸、水鳥の渡来地である水尻池及び浜村温泉を含む597ヘクタールの地域である。

2 自然公園の管理

国立公園及び国定公園については、保護の適正を図るため、特別保護地区及び特別地域を指定し、これらの地内において風致景観を損なうおそれのある一定の行為は、環境庁長官又は知事の許可を受けなければならないことになっている。

県立自然公園については、県立自然公園条例に基づいて管理運営されるが、まだ特別地域の指定がなされていない公園もあるので早急に特別地域を指定し保護管理の徹底を期することとしている。

国立公園の管理は原則として、国が行うこととされているが、自然公園法の改正により許認可事務が大幅に県知事に権限委譲され、県の管理事務量が増大している。

国立公園の管理機構としては、昭和48年7月に西伯郡大山町大山寺に環境庁大山隠岐国立公園管理事務所が、昭和51年10月に岩美郡岩美町牧谷に環境庁山陰海岸国立公園浦富管理員事務所が設置され、それぞれ地域内の管理業務を担当している。

昭和55年度以降の自然公園内の行為に係る許認可処理の状況は次表のとおりである。

行為の種類別では、工作物の新增築等が処理の大半を占めている。

表12 国立 国定公園における年度別許認可処理件数調べ

公園名	区分 許認可 年度 権限	公園事業関係					工作物等関係					計				
		55	56	57	58	59	55	56	57	58	59	55	56	57	58	59
	大山隠岐 国立公園	長官権限	17	34	37	25	28	13	5	14	14	11	30	39	51	39
知事権限		—	—	—	—	—	22	47	43	36	42	22	47	43	36	42
小計		17	34	37	25	28	35	52	57	50	53	52	86	94	75	81
山陰海岸 国立公園	長官権限	3	13	10	8	13	6	6	7	9	5	9	19	17	17	18
	知事権限	—	—	—	—	—	64	83	92	85	74	64	83	92	85	74
	小計	3	13	10	8	13	70	89	99	94	79	73	102	109	102	92
氷ノ山後山那 岐山国定公園	知事権限	0	0	0	1	0	7	7	4	4	4	7	7	4	5	4
比婆道後帝 国定公園	知事権限	0	0	0	0	0	1	2	1	1	1	2	1	1	1	
合計		20	47	47	34	41	113	150	161	149	137	133	197	208	183	178

3 自然公園の環境美化

自然公園内の主要利用地においては、利用者のもたらす空缶等廃棄物による人為的汚染が各所で問

題となっているが、これらの地域における環境汚染については、ほとんどの地域が日常生活圏から遠隔地であるという地理的条件の悪さから、廃棄物の効率的な収集処理等は極めて困難となっており、この対策については地元市町村のみで対応が難しいところであり、県においては、国の補助金と合わせて、民間活動団体の美化清掃活動に対して昭和59年度は表13のとおり助成を行い、また、昭和56年5月自然公園美化管理団体の大山支部が、さらに昭和59年6月に同鳥取砂丘事業所が設置されたのに伴い美化整備並びに公園管理について一層力を入れている。その育成を図るとともに環境美化を推進している。

なお、大山地域においては昭和52年から、山陰海岸地域においては昭和55年から、自然保護団体、地域住民、関係行政機関等の呼掛けで公園内のゴミ掃を目指したクリーン運動が春・秋の各1回と8月の第1日曜日に実施され、多くの参加者により年々ゴミの量は減りつつあるが、最終的な環境美化を成しとげるためには利用者のモラル向上が望まれている。昭和59年度のクリーン運動の概況は、表14のとおりである。

表13 昭和59年度美化清掃活動事業費実績

公 園 名	地 区 名	事 業 費
大 山 隠 岐 国 立 公 園	大 山 地 区	4,000 千円
	鏡ヶ成・榊水地区	2,400
山 陰 海 岸 国 立 公 園	鳥 取 砂 丘 地 区	4,000
	浦 富 海 岸 地 区	2,400

表14 昭和59年度クリーン運動概況

地 域 名	実 施 月 日	参 加 者
大 山	4 月 2 2 日	1,700 人
	8 月 5 日	170
	1 0 月 2 1 日	1,200
鳥 取 砂 丘	4 月 1 日	2,000
	9 月 3 0 日	2,000
浦 富 海 岸	8 月 5 日	700

4 自然保護用地の買上げ

国立国定公園の特別保護地区及び第1種特別地域内の民有地で、緊急にその土地を公有化しない限り自然の保護の徹底を規せられない地域について、交付公債により買上げ、自然の保護の徹底を期することとしている。

現在までの公有化状況は、表15のとおりである。

なお、智頭町芦津地内の氷ノ山後山那岐山国定公園第3種特別地域の土地について、立木を買収してそれに地上権を設定する本県独自の購入方法で、自然保護用地の取得に当たっている（表16のとおり）

表15 自然保護用地の買上状況

公 園 名	場 所	面 積
大山隠岐国立公園	江 府 町 木 谷	102.54 ha
	鏡 ヶ 成	78.15
	中 山 町 遠 茶 畑	25.64
	大 山 町 大 野	69.79
	向 原	7.47
	中 山 町 羽 田 井	39.51
	溝 口 町 金 屋 谷	15.25
	大 内	47.62
	計	385.97
氷ノ山後山那岐山国定公園	智 頭 町 芦 津	47.77
合 計		433.74

表16 立木購入状況

公 園 名	場 所	地上権設定面積	地上権設定期間
氷ノ山後山那岐山 国 定 公 園	智 頭 町 芦 津 地 内	44,8994 ha	50 年

第2節 自然公園の利用

1 自然公園の施設整備

所得や余暇の増大、都市化の進展等の要因により、国民の自然環境でのレクリエーション活動はますます増大しており、自然公園の利用者は近年増加の傾向にある。

本県では毎年計画的に自然公園の施設整備を進めており、昭和59年度は表17のとおり実施した。

表17 昭和59年度自然公園等施設の整備状況

(1) 国立 国定公園

公園名	事業名	箇所	事業内容
大山隠岐 国立公園	大山寺駐車場整備	大山町	駐車場造成舗装 A = 665 m ² サイト造園 A = 3,486 m ² 探勝歩道新設舗装 W = 20 m L = 656 m W = 15 m L = 6645 m
山陰海岸 国立公園	鳥取砂丘歩道整備 (多鯨ヶ池)	鳥取市	探勝歩道改良舗装 L = 1,289 m W = 20 m
"	鳥取砂丘駐車場整備 (公衆便所新築)	福部村	公衆便所 RC造水洗 A = 25.74 m ² 浄化槽一式
氷ノ山後山 那岐山 国定公園	那岐山登山道整備	智頭町	登山道新設 W = 15 m L = 816 m 改良 W = 10 ~ 1.5 m L = 1,589 m 避難小屋 木造 A = 17.6 m ²

(2) 県立公園

公園名	市町村	場所	事業内容
三朝東郷湖 県立自然公園	倉吉市	大平山	園地整備 修景伐 A = 7,399 m ² 歩道 L = 230 m W = 15 m ベンチ15基 植栽7本
西因幡 県立自然公園	気高町	勝山城跡	歩道整備 歩道 L = 115 m (150段) W = 10 m 休憩舎 木造 A = 80 m ²
奥日野 県立自然公園	日野町	鶉ノ他	園地整備 歩道 L = 110 m W = 1.5 m 休憩舎 木造 A = 12 m ²

2 自然公園の利用者

県下の自然公園の利用者は次表のとおりで、昭和50年代前半は増加の一途をたどり、昭和54年には735万人と46年以降最高の数字を示したが、55年にはオイルシ ックによる景気のかげりと冷夏の影響で680万人に激減した。56年には夏季が好天に恵まれたこともあって715万人に回復したが、その後は景気の長期停滞により減少し、58年には冬季の雪不足も相俟って55年の水準にまで落ち込んでいる。

第18 自然公園の利用状況

(単位 人)

公園名		年度						
		昭和53年度	54	55	56	57	58	
国立公園	大 山 隠 岐 国 立 公 園	2,746,000	2,498,200	2,543,000	2,066,000	1,991,900	1,886,700	
	山 陰 海 岸 国 立 公 園	2,464,900	2,635,000	2,188,000	2,924,000	2,825,300	2,767,600	
	小 計	4,640,900	5,133,200	4,732,000	4,990,000	4,817,200	4,654,300	
国定公園	氷ノ山後山那 岐山国定公園	140,000	170,000	162,000	165,000	161,700	163,000	
	比婆道後帝积 国 定 公 園	29,500	36,000	34,000	35,000	34,000	37,000	
	小 計	169,500	206,800	196,000	200,000	195,700	200,000	
県立公園	三朝東郷湖 県 立 公 園	1,859,700	1,847,500	1,721,000	1,805,000	1,839,700	1,854,900	
	奥 日 野 県 立 公 園	130,000	158,600	150,000	153,000	156,300	160,000	
	小 計	1,989,700	2,006,100	1,872,000	1,958,000	1,996,000	2,014,900	
合 計		7,100,100	7,346,100	6,800,000	7,148,000	7,008,900	6,869,200	

第 3 章 鳥 獣 保 護

第 1 節 鳥 獣 の 保 護

1 鳥獣保護の概況

野生鳥獣は自然環境を構成する重要な要素の一つであり、自然環境をより豊かにする上で欠くことのできないものである。同時に、その減少は人間にとっても生活環境の悪化を示す指標と認識され、森林や農作物の害虫の天敵としても有益である。

県内に生息する野生鳥類は約280種である。また中海のコハクチウは我が国の南限集団渡来地として貴重な場所となっている。

近年、野生鳥獣は各種の開発によって生息状況は変化し、生息数の減少が余儀なくされている。

本県では、これら野生鳥獣の保護対策の一つとして、5か年を一期とする「鳥獣保護事業計画」を樹立して計画的に保護対策を実施している。

2 鳥獣保護の対策

(1) 鳥獣保護区の設定

野生鳥獣の保護及び繁殖を図るため、次のとおり鳥獣保護区を設定している。

表19 鳥獣保護区

区 分	県 設		国 設		合 計	
	箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積
森林鳥獣生息地の保護区	11	17,553 ha	1	6,025 ha	12	23,578 ha
大規模生息地の保護区	—	—	—	—	—	—
集団渡来地の保護区	2	1,577	1	8,462	3	10,039
特定鳥獣生息地の保護区	1	302	—	—	1	302
愛護地区の保護区	3	24	—	—	3	24
合 計	17	19,456	2	14,487	19	33,943

(昭和60年3月末日現在)

イ 休猟区の設定

狩猟鳥獣の減少した地域を、3年間休猟とし、キジ等の狩猟鳥獣の繁殖を図り、狩猟の持続性を促進するため、次のとおり休猟区を設定している。

表20 休 猟 区

昭和57年度		58年度		59年度		計	
箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積
11	15,756 ha	11	17,989 ha	11	18,219 ha	33	51,964 ha

ウ 銃猟禁止区域の設定

銃猟による危険の未然防止の必要な観光地、レクリエーション等のため人の出入りの多い地域及び病院、学校等の静ひつが必要とされる地域26か所、8,671ヘクタールを銃猟禁止区域に設定している。

(2) 狩猟鳥獣の人工増殖

狩猟鳥獣の保護、繁殖を図るため人工養殖した日本キジを生息適地である休猟区22か所に1100羽放鳥し、これの増殖に努めている。

(3) 狩猟の適正な推進

狩猟はスポーツとしての狩猟のほか、野生鳥獣の生息調整に大きな役割を果たしているが、捕獲に際しては銃器、わな等を使用するため高度の技術と知識が必要であり、加えて公安上の危害が生ずるおそれがあること等から狩猟者は知事の行う狩猟免許試験等を受け、狩猟免許を取得することが義務付けられている。

昭和59年度の狩猟免許試験等の実施状況は、次のとおりである。

表21 狩猟免許試験等の実施状況

種別	区分	狩猟免許試験			狩猟免許更新、審査講習			昭和57年度から昭和59年度まで 免許交付件数
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
甲	種	4	3	75	2	2	100	130
乙	種	27	25	92	53	53	100	2,733
丙	種	22	18	81	35	34	97	534
	計	53	46	87	90	89	99	3,397

また、狩猟免許者が狩猟期間中（11月15日から翌年2月15日まで）に、狩猟鳥獣を捕獲しようとする者に狩猟者登録証を次のとおり交付した。

表22 狩猟者登録証交付状況

種別	区分	昭和57年度			昭和58年度			昭和59年度		
		県内者	県外者	計	県内者	県外者	計	県内者	県外者	計
甲	種	83	3	86	86	3	89	69	2	71
乙	種	2,304	130	2,434	2,093	143	2,236	1,968	120	2,088
丙	種	328	2	330	300	1	301	252	2	254
	計	2,715	135	2,850	2,479	147	2,626	2,289	124	2,413

(4) 愛鳥モデル校の指定

児童生徒の情操教育の一環並びに愛鳥思想の普及啓もうを図るため、次の小、中学校を愛鳥モデル校に指定している。

表23 愛鳥モデル校

指 定 期 間	市 町 村 名	学 校 名	摘 要
昭和57.4～62.3	鳥 取 市	湖 南 中 学 校	野鳥愛護林を有している。
	智 頭 町	智 頭 小 学 校	
	若 桜 町	若 桜	
	倉 吉 市	明 倫	
	境 港 市	西 郷	野鳥愛護林を有している。
		上 道	
		中 山 町	
日 南 町	多 里		
計		8 校	

(5) 野生鳥獣の生息調査

野生鳥獣の保護対策、狩猟対策及び有害鳥獣対策の適切な実施に資するため、次の調査を実施した。

表24 野生鳥獣の生息調査

区 分	調 査 地	対 象 鳥 獣	調 査 定 線 の 規 模	調 査 回 数
生息分布調査	大山町大山寺ほか8か所	一般鳥獣	幅40m 延長4km	5月、11月各1回
休 猟 区 設定効果調査	岩美町岩常休猟区ほか 4か所	狩猟鳥獣	幅40m 延長2km	6月、11月各1回
ガン、カモ、白 鳥類一斉調査	鳥取市千代川ほか9か所	ガン、カモ 白鳥類	水面の全域	11月上旬及び1月 16日～1月17日
指定鳥類等 保護調査	佐治村高鉢山ほか5か所	オシドリ イヌワシ	渡来地及び営巣地	オシドリ 11月と3月各1回 イヌワシ 5、6、1、3月各1回